

経済学部商業学科通信教育課程

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部商業学科通信教育課程は、幅広い年齢層、様々な社会経験を有する学生の多様なニーズに応えるため、カリキュラムを2019年度から開始された通学課程の新カリキュラムと連携させるとともに、専門科目は経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるなど、バランスのとれたカリキュラムを提供している。2019年度はメディア・スクーリングも拡充された。今後は教授会などで効果の把握・検証を適切に行うことで、更なるカリキュラムの充実を期待したい。

学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。また、夏季・冬季スクーリングで「通信教育部生のつどい」が実施され、学生間及び教員と学生間で情報交換を行う場が設けられているが、これは学生指導という側面だけでなく、カリキュラムや授業の改善に資する学生の意見や意識の把握という側面も持っているため、大変意義があると考えられる。

成績評価と単位認定は、学務委員がシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているか確認しており、適切性が担保されている。

出願数や入学者数の増加、離籍率の低減に関する対応は、通信課程の性格上、困難であるが、受け入れ時における学科への適正確認や学習意欲の判断だけでなく、カリキュラムの拡充や授業改善、また、教員、学生間の双方向によるコミュニケーションを量・質ともにより充実させるなど、総合的な対応を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

カリキュラムの一層の充実については、2019年度から始まった通学課程の新カリキュラムとの連携する方向を継続した。通信教育部の経済学部商業学科のホームページに掲載したカリキュラムツリーとカリキュラムマップにより、経営学・商学・会計学・ファイナンス、経済学、そして情報・統計学などの専門科目の位置付けと相互関連性を明確にしつつ、通学課程のカリキュラムとの一体感の醸成に努めている。メディアスクーリング科目については、撮り直しや新規開講について教授会で告知することでさらなる拡充を目指すとともに、質の向上も図られた。

学習指導については、通信学習の学習質疑制度やメディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、一部のスクーリング科目の授業後の質疑応答や、夏期・冬期スクーリングでの「通信学部生のつどい」は実施できなかった。

成績評価や単位認定については、学務委員によるシラバスの第三者確認をこれまで通り厳密に行なった上で、成績評価についてもこれまで通り教授会で情報共有した。

出願者数や入学者数については、直近3年間と比べてやや増加傾向にあるが、学習指導方法の充実が長期的にはプラスに働くという想定のもとで、上述した双方向コミュニケーションを充実させるなど、より一層の努力を投入した。離籍率の低減については、長期的な取り組みとして、学生受け入れ時の選考時に本学科への適性や学習意欲を注意深く判断することで、学生ニーズと提供するカリキュラムとのミスマッチを防いだ。ただし、出願者や入学者数、離席率については、今後はCOVID-19の影響を注視する必要がある。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2019年度から始まった通学課程新カリキュラムとの連携が継続され、カリキュラムの充実が目指されている。また、経済学部商業学科ホームページ掲載のカリキュラムツリーとカリキュラムマップによって経営学・商学・会計学・ファイナンス、経済学、情報・統計学など諸分野専門科目間の関連を提示することで、学生が科目履修を進める上での目安が提供され、通信学習の学習質疑制度やメディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションによる学習指導など、充実した教育が提供されている。

新型コロナウイルス感染症の流行で一部のスクーリング科目における授業後の質疑応答や「通信学部生のつどい」がやむを得ず実施できなかった点は残念であるが、受講者にとって個々の科目を学ぶことの意味の理解につながるカリキュラムの体系化・明示化や双方向コミュニケーションによる学習指導、そして学生受け入れ時の学科適性・学習意欲に関する注意深い判断等、適切な努力が継続されており、COVID-19の影響を注視し、個々の対策の効果を見極めつつ、引き続き適切な対応を期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>通学課程で提供している教育内容と同様の水準の学習が出来るよう、商業学科では、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムの提供に努めている。同時に、各担当教員は、通信教育課程に特有の多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために、授業運営や学習方法の工夫に力を入れている。商業学科には職務経験を有する教員が少なくないため、より実践的な学習内容の提供も可能となっている。</p> <p>授業形態は、通信学習と各種スクーリングの2つである。スクーリングは、昼間6日間と終日3日間の夏期・冬期スクーリング、夜間開講の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリング、これにインターネットを利用したメディアスクーリングと、その形態は多様である(ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、冬期スクーリング以外は中止)。通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向けて、商業学科では、2020年度に21科目を設置し、19科目を開講した。また、教授会においてメディアスクーリングの新規担当者を募集した。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムツリーの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムマップの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>卒業単位124のうち専門科目は82単位であるが、その構成は選択必修科目が20単位、選択科目が62単位となる。専門科目については、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮している。また、意欲と適性のある学生に対し通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献する人材を育成するための授業科目を体系的に配置している。そのため、現在の商業学科は、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の1つとなっていると言える。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/#menu 商業学科カリキュラムツリーとカリキュラムマップ 『学習のしおり』2021 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web学習サービスによる授業計画管理 学習ガイダンス(事務ガイダンス、卒業生による体験ガイダンス・相談、教員による学習指導、教職ガイダンス)による履修指導(※2020年度は新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮して教職ガイダンスのみオンラインで実施した) 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信教育部学習環境・サポート制度 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/ 『法政通信』、各年月号 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを利用し、直接担当教員の指導を受けることが出来る。ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行によりスクーリング科目の授業後質疑と夏期・冬期スクーリングにおける「通信教育部生のつどい」は実施できなかった。 Web 通信学習相談制度を利用し、学習計画、レポート作成、試験対策について通信教育部の卒業生による学習指導を受けることが出来る。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信教育部学習環境・サポート制度 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/ 『法政通信』、各年月号 	
<p>③通信教育課程では、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>商業学科には多種多様な科目が配置されており COVID-19 への一律の対応・対策が難しいため、担当教員に対して臨機応変な対応を求めた。ただし、その効果は補足できていない。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているかを学務委員が確認している。 レポートや筆記試験における不正行為については、基本的に個別教員の判断に委ねるが、不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分を行い、通信教育部学務委員会と情報共有する。 他大学、専門学校、本学通学課程からの編入学生の既修得単位の認定は、事務と連携し、学務委員が通読判定の際、厳正に対応している。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学通信教育部商業学科 Web シラバス 	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進級判定は、卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議を行っている。 成績分布、学生アンケート、レポート提出数、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等のデータは、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告し、情報を共有している。 在学年限を超えた学生の再入学について学務委員が公正な審査を行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>商業学科の学習分野は多様であるため、その学習成果の測定については、すべての科目のシラバスに適切に記載する必要がある。シラバスの第三者確認として、商業学科の学務委員二人は、シラバスに成績評価の方法と基準について不明確な記述がないかなどを開講時期に合わせて順次確認している。学習成果の把握は、レポート添削や単位修得試験などによって適切に行われている。レポートや卒業論文などの学習成果物に対しては、科目担当教員に対して不正行為防</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

止用ソフトウェアの利用を促し、学習成果の客観的な評価に努めている。成績分布等のデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学通信教育部商業学科 WEB シラバス	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 個別学生の学習成果は、修得科目の状況やその成績によって把握している。通信教育科目は、レポート添削に加え、単位修得試験によって学習成果を測定している。スクーリング科目は（2020年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため多くの科目が中止）授業参加度と授業最終日に実施する最終試験で、メディアスクーリング科目は最終試験に加えて中間レポートを課すなどにより、それぞれ学習成果の把握に努めている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・スクーリング科目は国内外の各地から宿泊を伴う移動を受講生に強いることから、新型コロナウイルス感染症流行下での実施は困難であった。改善計画は、各種のスクーリング科目をオンラインに移行することで、2020年度冬期スクーリングからは対応可能な科目からオンラインでの実施を始めている。	1.1.①

【この基準の大学評価】

<p>経済学部商業学科通信教育課程では、通学課程で提供される教育内容と同水準の学習機会を提供すべく、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムが提供されるよう努力がなされている。加えて、経済学部商業学科には職務経験を有する教員が少なくないため、より実践的な学習内容の提供が可能であり、多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生の教育意欲を高めることが可能となっている。</p> <p>また、通信学習に加えて、昼間6日間と終日3日間の夏期・冬期スクーリング・夜間開講の春期・秋期スクーリング・週末3日間の週末スクーリング・3日間の地方スクーリング・GWスクーリング、さらにインターネットを活用するメディアスクーリングと多様なスクーリングの機会が設けられており、学習意欲の維持や教員とのコミュニケーション機会の提供に資するものとなっていると推測できる。学習指導は、Web学習サービスによる授業計画管理、事務ガイダンス・卒業生による体験ガイダンス・教員による学習指導等々、多様な学習ガイダンスに加えて、通信学習における学習質疑制度、スクーリング科目における授業後質疑や双方向コミュニケーションなど、様々な回路で重層的に実施されており、適切だと評価できる。</p> <p>成績評価や不正行為が生じた場合の対応についても適切に制度化されていると評価できる。なお、宿泊を伴う移動を受講生に強いるスクーリング科目の実施はパンデミック下では困難であり、これに対処するため冬期スクーリングからは、可能な科目からオンラインへの移行が開始されているとのことである。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1	その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①	その他、通信教育課程として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入	
特になし	
【根拠資料】	
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2020年度のメディアスクリーングで、通常開講に加えて秋学期に春学期科目も追加で一部開講する措置をとる、オンラインで行われる卒論面接試験などの際にネット環境に不安な学生の来校を許可し PC を利用させる、などの対策を行ったことが、インタビューで確認できた。学生の学習の機会を確保し、オンラインでの指導も丁寧に対処しており、高く評価できる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	—
理由		—	
	改善策	—	
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	—
理由		—	
	改善策	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。	
	達成指標	授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由		HP 上で通学課程のカリキュラムと同一水準であることは発信できたが、コロナ渦により実施困難なイベントがあり、学生の要望は年初の想定ほど汲み取れたとは言えない。	
	改善策	通信教育学部生のつどいなどは、オンライン形式での実施を積極的に検討し、学生の要望把握に努める。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	ICTの著しい発展や社会環境の変化に伴う学習方法の変容に対応することを重視し、メディアスクーリングの拡充とその質の改善に努める。
	達成指標	メディアスクーリング科目の開講や再収録について教授会などで告知する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		メディアスクーリング科目等について、教授会で告知した。担当教員の配置については、教授会で審議することで適正かどうかを検証した。
改善策	対面でのスクーリングが引き続き困難となる状況を見越し、次年度以降もメディアスクーリングの開講コマ数の拡充に努める。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	入学ガイダンスなどを通じて学習計画に立ち入った指導を行う。担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		授業形態別成績分布や取得単位数の推移などのデータには顕著な変化は認められなかったが、コロナ渦の影響が出はじめている可能性を考慮する必要がある。
改善策	オンラインアンケート等を活用しながら、在宅での学習環境の変化など、質的な情報収集も検討し、カリキュラム改善に活用する。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	学習ガイダンスでの指導のみならず、各担当教員にも、レポートの書き方指導の徹底や、学習意欲を高めるためのさらなる工夫を呼びかける。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		離籍率は昨年度と比べると1%ほど上昇したが、ここ5年は低水準を保っている。指導や学習意欲を高める工夫だけでは防げない離籍には、対策の効果は限定的であるため、現状維持は評価できる。
改善策	対面での指導が難しくなることを前提に、通信教育という学習形態のメリット/デメリットを整理し、学習指導方法の改善に反映させる。	
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通信教育部のコンテンツ充実化に協力するとともに、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的な商業学科の評判の向上を目指す。
	達成指標	商業学科の入学者数と在籍者数は、学科単位としては最も多いが、引き続き、中長期的な推移を検証していく。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		入学者数は約50名増加、在籍者数は微増だが、コロナ渦の影響がはじめていると考えられるため、この水準を例年の傾向と並べて評価するのは難しい。
改善策	コロナ禍の影響評価に引き続き努めるとともに、在宅学習・通信教育形式のメリットを積極的にPRし、学習ニーズの社会的な高まりに備える。また、障がい者など社会的弱者の学習	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			ニーズにも幅広く対応する。
No	評価基準	教員・教員組織	
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。	
	年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。	
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		学務委員が中心となり、科目担当教員が適切に配置されているかを検証した。	
改善策	オンライン授業のさらなる活用等を通じて、より多くのスタッフを巻き込む形で担当教員を配置し、科目の多様性を高める		
No	評価基準	学生支援	
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。	
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポートや卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底するとともに、不正行為防止冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。	
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて、授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由		不正行為を予防する対応は実施しているが、コロナ禍によりスクーリングが実施できなかったため、対面での注意喚起ができなかった。	
改善策	冊子やガイダンス等での注意喚起を継続するとともに、担当教員からのアプローチも強める。ただし、一定水準以上の注意喚起は学生の意欲を減退させることにつながりかねないので注意する。また、剽窃発見ソフト等の活用を通じて、不正行為の監視体制を強化すると同時に、発覚した場合の事後的対応の厳格化も検討する。		
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。	
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場の強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。	
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		卒業生による体験談などの公表により、学習モデルの提示と勉学の動機付けは達成できたと考えられる。	
改善策	オンライン授業形式の増加を見据え、コロナ禍における学習モデルの多様化を勘案しつつ、体験談等のアップデートに努める。また、障がい学習支援室など内部部局との連携を高め、障がい学生への支援体制も強化する。		
<p>【重点目標】 メディアスクーリング科目の充実と質のさらなる改善</p> <p>【目標を達成するための施策等】 科目の授業形態の現状を把握した上で、カリキュラムツリーとカリキュラムマップをもとに、バランスに留意しつつ、学生からの要望が多いメディアスクーリング科目の量・質の充実を図る。そのために、教授会等でメディアスクーリング科目の担当者を新たに募集し量の充実を図るとともに、教授会構成メンバーに対してオンデマンド授業のノウハウを情報</p>			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

共有する場への参加を促すことで質の向上も図る。

【年度目標達成状況総括】

年度目標は8項目中6項目が達成できた。質の向上という点では、継続的な努力により全ての項目において一定の水準に達しているため、「質の向上が顕著である」という「S」に該当する項目はなかった。ただし、この点に関して悲観する必要はなく、むしろ、一定の水準に達している状況の中で「質の向上が見られる」点を十分に評価する必要がある。一方で、達成が不十分であった項目は、コロナ渦により中期目標を作成した時とは前提が変わってしまったため、事実上、目標達成の取り組みが不可能であった。2021年度においては、コロナ渦の継続を前提に、中期目標に基づく年度目標を設定し、着実に実行する必要がある。

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程は「2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書」にも記載されているとおり、通学課程と同等な教育内容を提供するためのカリキュラムや学習指導の充実等、継続的な努力により、すでに一定の水準に達していると評価できる。コロナ禍でも大きな悪化が見られなかった点は高く評価すべきであり、今後は、学生からも要望の多いメディアスクーリング科目の充実等を通して通信教育課程のメリットがさらに生かされることを期待したい。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。
	達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信する。授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	COVID-19の動向に左右されないスクーリング科目の安定的な実施方法を模索する。メディアスクーリング科目の一層の拡充を図り、各種スクーリング科目の質の改善に努める。
	達成指標	スクーリング科目の担当教員にオンラインと対面のどちらでも対応可能か打診した上で担当を依頼する。授業運営のノウハウを適宜、教授会等で情報共有する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	各担当教員にレポートの書き方指導など、学習意欲を高めるための工夫の呼びかけを継続する。入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進める。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握しつつ、学務委員が中心となって入試判定の厳格化を進める。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通信教育部のコンテンツ充実化を図るとともに、授業の質の改善などに積極的に取り組むことにより、将来的な商業学科の評判の向上を目指す。
	達成指標	商業学科の入学数と在籍者数は学科単位としては最も多く、すでに一定の水準に達していることを踏まえた上で、引き続き、中長期的な推移を検証していく。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。近年増加傾向にある教育負担の平準化も並行して実施する。
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポートや卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底するとともに、不正行為防止冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて、授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。不正行為が発覚した場合は厳正に対処する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場の強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
<p>【重点目標】 COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 スクーリング科目の担当者に、対面ではなくオンラインで開講することになった場合でも担当していただけるかを確認することで開講科目数の確保に努めるとともに、教授会等を通じてオンライン授業の運営に関するノウハウの共有を図る。</p>		

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の重点目標は「COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索する」こととなっており、オンラインでの開講への対応可能性に関する情報収集に基づく教員配置のみならず、オンライン授業の運営に関するノウハウ共有の推進を通して担当者の掘り起こしを図るなど、実現のための施策も適切に設定されている。コンテンツ充実など教育内容のさらなる向上に目配りするとともに、教員負担の平準化にも配慮がなされており、課程の円滑な維持・運営という点でも評価できる。

【大学評価総評】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

経済学部商業学科通信教育課程は通学課程と同水準の教育内容を提供すべく、カリキュラムの体系化とその受講生への明示など、適切なカリキュラム改善の努力がなされている。通信教育課程には、通学課程よりも多様性に富んだ社会経験と学習ニーズをもつ学生の入学が見込まれるが、ミスマッチを回避するための慎重な入学判定の実施とともに、Web 学習サービスによる授業計画管理、多様な学習ガイダンスに加えて、教員とのコミュニケーション機会を様々な回路で準備することで、質の高い教育が提供されていると評価できる。

通信学習に加えて豊富に準備されるスクーリングは、学生の学習の深化のみならず、教員とのコミュニケーションを図る回路ともなっていると推察できる。COVID-19 により従来の宿泊を伴うスクーリングは困難となったが、「COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索する」ことが 2021 年度重点目標として設定されており、学生からの要望が多いメディアスクーリング科目のさらなる充実を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。